HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第3講座の立場
Author(s)	桑原, 驎児
Citation	衛生工学, 1, 11-12
Issue Date	1958-08-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36128
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_11-12.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

才3講座の立場

教授　桑原　麟児

From the Stand Point of the Chair of Sanitary Engineering 3

Prof. Rinji Kuwahara

北大工学部に衛生工学科が設立され，本年4月私は才3講座の担任教授として母校に迎えられたが，未だ才3講座が出来上つているわけではない。今年出来上つたのは才2講座までで，才3講座は正式には来年から発足することになる。

才3講座担当の科目は水道衛生，水質試験，疫学，環境衛生学，蚊族昆虫駆除，衛生行政等である。之等の科目はまた大きくは公衆衛生等の一分科として，現在まで夫々の発展を見せて来た所である。

教育的立場では，之等の科目は衛生工学の衛生工学たる所以の専門科目として取り扱われる。

衛生工学科で教育を受けた人々は，建設と管理の両面の基礎知識をつけて世に出る。之は非常に重要なことであり且強味でもある。例えば上水道にせよ，下水道にせよ，之を建設し敷設する専門家が，同時に維持管理に必要な衛生学的知識を身につけておくことが如何に重要であるかは申すまでもない。

また維持し管理して行く人々が，その建設に必要な土木工学的知識を持つていることは，その人々の仕事の上で，非常な強味となつて来るであろう。

衛生工学の専門家はその両者を兼備して居らねばならないし，そのような専門家を育成するのが，本学科の特徴でもあろう。

工学部内で生物を扱う唯一の学科としての衛生工学科内に於ける才3講座の使命は重い。

研究面に於ても，私は私なりの抱負を持つている。勿論，才1，才2又は才4講座と密接な連絡をとつて研究を進めて行くこともなければならないし，また単独に才3講座独自の立場での研究の展開もあるであろう。

学問は Grenzgebiet から発達するとよく言われる。工学と医学との接触点，之を如何にして発展させるか，ここに本学科の一つの使命があるようにも思う。私は工学方面の知識の吸収に謙虚でありたい。

私達の今後やろうとする研究に対して，今まで学んだ学問の過去をふりかえつて見るとき，医学，薬学，化学等各方面の人々の ―― 特に公衆衛生学に於て ―― 多くの業績を発見する。それは私達に幾多の示唆を与えている。

私達は之等の人々と手をつないで研究を進めて行くであろうし，またそうなければならない。

私達の学問は，私達だけで解決出来るほど狭いものではないし，急を要する問題が山積している。同時にまた，北大，京大の他にも多くの大学の衛生工学科設立を望んで止まない。